

平成23年度JTAナショナルチーム指導者講習会

中国地域合宿 報告書

中国テニス協会代表コーチ 平岡 康治

- 日程** 平成23年9月17日(土)、18日(日)、19日(月;祝)
17日(土) 9:45集合 10:00~21:00
18日(日) 9:00~21:00
19日(月;祝) 9:00~16:00
- 会場** びんご運動公園(砂入り人工芝 インドア4面)
- 宿舎** ふれ愛ランド(福山市自然研修センター)
- 参加者** JTAナショナルコーチ 駒田 政史、JTA S&Cコーチ 山本 修嗣
中国テニス協会 津島 則之(理事長)、屋葺 道信(事務局)
西村 覚(ジュニア委員長)
中国強化コーチ 柏井 正樹(島根) 平岡 康治(広島)、五藤 健介(岡山)
中国S&Cコーチ 高川 亜紀(広島)
県代表コーチ 乾 健作(島根)、武田 守弘(広島)、小郷 正一(岡山)
村川 洋(山口)、高木 利郎(鳥取)
県代表S&Cコーチ 芦山 洋子(島根)
男子選手 樋口 廣太郎・岡崎 大倭・阿部 称也・秋吉 大地(広島)
山浦 淳輝・小林 将大・岡田 星翔(岡山)、田村 郡治(山口)
女子選手 平田 歩・綾部 凜紗・横山 祥子・山下 みなみ(岡山)
金山 晴菜・永嶋 彩乃・梶下 美空・安部 由香莉(広島)

*中国テニス協会では最新ランキングの上位8名を選手として選考している。

内容

- 17日 10:00 開会式 津島理事長 挨拶、柏井コーチよりスタッフ紹介・注意事項
10:15 地域S&Cコーチ 高川コーチによるフィジカルウォームアップ
11:15 地域コーチによるテニスウォームアップ(ミニテニス、基本ラリー、サービス練習等)
12:00~13:00 昼食
13:00 クラブハウス会議室にてJTA講師紹介(駒田コーチ、山本コーチ)、挨拶

講義I：シングルのポジショニング、戦術(テニス、駒田コーチ)

プロジェクターを使いプロ選手の動画を見せる。映像を見て分析してみる。ジュニア選手の意見・感想を聞く。錦織選手の二つのプレー「守備的なプレーをしてポイントを取る」と「攻撃的なプレーをしてポイントを失う」場合を見せてジュニアの意見を聞く。

「ポジショニング」について説明、前後のポジションについて説明、「オープンコートをつくる」。フェデラーのスライスサービスで相手を外に出してオープンコートを作り決め球を打つビデオを使いポジショニングを説明。サービスからの展開を説明。

「相手はコートの端に追いやり(戻れないポジション)、逆に、自分は相手の打つであろうコースの真ん中に立つ事ができる」事が大切。



14:00 ・オンコートⅠ：オンコートトレーニング（フィジカル）

ウォーキング・ランニング・ストレッチ・体操などでウォーミングアップ。

【ドリル】

- ・タッピング
- ・スキップ
- ・肩入れスキップ（縦振り・横振り、斜め）
- ・ニーアップ→バットキック→アフリカステップ
- ・クロスオーバーステップ
- ・バッククロスオーバーステップ
- ・コンビネーションランジ
- ・エルボーランジ→ストレートアップ

【快調走】

- ・ホッピング快調走（3回・5回）
- ・ロケットダッシュ（左右）

【眼球運動】

- ・平面 奥行き
- ・目（眼球）のトレーニング：二人ひと組となって一人がパワーポジションをとり、もう一人が動かすボールを目だけで追う（首は動かさない）。左右前後・遠く近くを組み合わせで動かす。

【リアクションドリル】

- ・左右スタンプ ダブルスタンプ シザースジャンプ
- ・反射・反応系のトレーニング：コーチの4つの動作（両手首を右に傾ける・左に傾ける・下に開く・上に開く）に反応して、選手はクイックステップで待機し4つの動作（右へのスタンプ動作・左へのスタンプ動作・ダブルスタンプ・シザースジャンプ）を行う。コーチはランダムに指示を出し、最後はダッシュで終わる。今日は初めてなので上手くできなくてもいいとアドバイスする。

【肩作り】ラケットを使って

- ・ショルダープレス
- ・サイドベント
- ・片抜き



15:00 ・オンコートⅠ：ストローク、正確な打ち分け、軌道の変化、タイミングの変化（テニス）

正しいところでボールを捕らえる。打球方向へ足をスクエアに踏み込む、頭を動かさない。等の説明・注意を与える。

- ・ミニテニス、ベースラインでのストレートラリー、ボールの後ろに早く準備し入ること、打点が高すぎないこと、後ろから前への体重移動をすることを注意。
- ・ベースラインでのクロスラリーでボールの来るであろう、ところに入りボールの後ろを取る、正しい打点の高さで打つ、足を前に踏み込んで打つ。
- ・片方の選手がゆっくりで深く高いロブ性の球を打ち、片方の選手は普通に早い打点で打つ。
時間を作る練習と時間を奪う練習　　ストレートラリーで行う。
テイクバックをコンパクトにして、打点を作ってそれを意識してテイクバックする事を注意。
- ・クロスラリーで打った後、必ずセンターマークをタッチする。時間作る事を考える。
遠くに振られたらゆっくり打って時間を稼ぎ、センターに戻る。
- ・2対1でラリー、1はフォアのみで2球ずつストレート・クロスと打ち分ける。
準備を早くする、相手のボールがネットを越えてくるまでにはテイクバックを完了する。
- ・クーリングダウン（フィジカル）

14:00 下記の会議が合宿と同時に行われた。

- 1) 会議名　　J T A合同ジュニア委員会(スポーツ振興くじ申請事業)
- 2) 主な議題　① ナショナルジュニアランキングと JPIN システム（選手登録システム）
 ② ジュニア大会環境の整備
 ③ ふるさとトレセンの展開
- 3) 対象者　　地域内都道府県のジュニア委員長又は議題に対応できる方
- 4) 日 時　　平成 23 年 9 月 17 日（土）14 時～16 時
- 5) 場 所　　びんご運動公園テニスコート管理棟研修室
- 6) 資 料　　強化指導指針Ⅲ他
- 7) 派遣委員　富岡 好平　　（JTA ジュニア委員会常任委員：ジュニアランキング担当）
 西村 覚　　（JTA ジュニア委員会常任委員：大会環境・トレセン担当）



17:00 宿舎への移動

18:00 夕食・入浴

研修室が確保できなかったので夜のミーティングはなし。

22:00 就寝

18日 06:30 朝のウォーキング・ジョギング・ストレッチ等

07:00 朝食

08:00 移動

09:00 ・オンコートⅡ：オンコートトレーニング(フィジカル)

基本的に昨日のトレーニングと同じメニュー（昨日との動きの違いを見る）
ウォーキング・ランニング・ストレッチ・体操などでウォーミングアップ。

【ドリル】

- ・タッピング
- ・スキップ
- ・肩入れスキップ（縦振り・横振り、斜め）
- ・ニーアップ→バットキック→アフリカステップ
- ・クロスオーバーステップ
- ・バッククロスオーバーステップ
- ・コンビネーションランジ
- ・エルボーランジ→ストレートアップ

【快調走】

- ・ホッピング快調走（3回・5回）
- ・ロケットダッシュ（左右）

【眼球運動】

- ・平面 奥行き
- ・目(眼球)のトレーニング：二人ひと組となって一人がパワーポジションをとり、もう一人が動かすボールを目だけで追う（首は動かさない）。左右前後・遠く近くを組み合わせで動かす。

【リアクションドリル】

- ・左右スタンプ ダブルスタンプ シザースジャンプ
- ・反射・反応系のトレーニング：コーチの4つの動作（両手首を右に傾ける・左に傾ける・下に開く・上に開く）に反応して、選手はクイックステップで待機し4つの動作（右へのスタンプ動作・左へのスタンプ動作・ダブルスタンプ・シザースジャンプ）を行う。コーチはランダムに指示を出し、最後はダッシュで終わる。

【トレーニング】

- ・クレージーボール練習

二人ひと組で一人が後ろからクレージーボールを投げ、一人がワンバウンドで取る。取った後滑らないように注意。スプリットステップで止まる。

【肩作り】ラケットを使って

- ・ショルダープレス
- ・サイドベント
- ・片抜き

昨日よりは良くなっているとアドバイスされていた。明らかに昨日よりは動きが良くなっている。

10:00・オンコートⅡ：ネットプレー（テニス）

ポジショニングを確認、打つ場所（自分と相手の）

ミニテニス（滑って打たない）、ベースラインでストレートラリー、準備を早くしてボールの後ろに入ることを注意。

- ・ボレーの時にボールの内側を打つ選手が多い、のでボールの外側を打つ練習から始める。アングルボレーの練習。コーチの球出しで練習した。グリップを工夫し、調整する。
- ・ボレーボレー練習。最初は普通のポジションで、体をターンしてボレーする。次にサービスラインの後ろと後ろで長いボレーボレー、サービスラインの1m後ろでもやってみる
ボールの真後ろにラケットをセットする。上から切りおろしている選手が多い（フォームが大きくなっている）
- ・半面ストレート、ベースラインでラリー、相手が短い球を打ったら前へボレーしに出る。相手が打つまでにサービスラインの中に入る。時間を作って前が出る。お互いに出る。
- ・2対2で11ポイント先取のポイントマッチ、ネットでポイントを取ったら2点もらえる。二人で必ず前が出る、ロブなし。
課題を与えられて練習するのは面白くないかもしれないが、自分の好きな事ばかり練習していたら上達はしない。
- ・クーリングダウン（フィジカル）



12:00 昼食・休憩

13:30・オンコートⅢ：オンコートトレーニング(フィジカル)

【快調走】

- ・ホッピング快調走（3回・5回）
- ・ロケットダッシュ（左右）

【トレーニング】

- ・クレージーボール練習

4人ひと組で一人がボールを投げて後ろに下がる、他の3人で三角形を作るようにボールを囲み、誰かがキャッチする、1バウンドでキャッチできたらOK、連続で30回キャッチできたらOK。ボールがバウンドした時にスプリットステップをする。空間やフォーメーションを意識する。

【肩作り】

- ・ショルダープレス
- ・サイドベント
- ・片抜き

14:30・オンコートⅢ：サービスからの展開（テニス）

10分間でミニテニス、Gストローク、ボレー、スマッシュをすべてウォーミングアップする。

- ・サービスでデュースサイドからワイドサービスを打つ、相手を外に追い出す。クロスに帰ってきたボールをストレートに速いテンポで打つ。最初はコーチの球出しのボールをストレートに打つ。早い動作で打つ。

次に実際に帰ってきたクロスリターンをストレートに準備を早くして早いテンポで打つ。

次にポイント形式で行う。サービスをワイドに打つ、レシーブはクロスにかえし、サーバーはその球をストレートに相手から時間を奪うように打つ。その後はフリーでポイントマッチ。

11Pマッチ

- ・サービスをアドサイドからワイドに打つ。スピンサービスを外に打つ、下から上に擦る。帰ってきたクロスリターンをフォアに回り込んでストレートに打つ。（女子はバックを使ってもよい）女子はスピンサービスだけをまず練習した。トスを頭の上にあげ、横を向いて打つ。頭を動かさない。デュースサイドと同じようにポイントマッチをする、なるべく回り込んでストレートに攻撃する。
- ・完全にフリーのポイントマッチ、3人がサービス、一人がレシーブ、一人2ポイントずつプレーし、早くレシーバーから1ゲームを取ったら人がレシーブ・チャンピオンになる。

16:00・ケーリングダウン（フィジカル）

ケーリングダウンを兼ねてランニング

「じゃんけん走」4人グループでコート3面を使って行う。じゃんけんで勝った人は進み、負けた人は戻る。相手の最後の陣地に入って最後のじゃんけんに勝ったらゴール。滑らず完全にスプリットステップで止まってじゃんけんをする。

体操・ストレッチ

17:00 宿舎への移動

18:00 夕食・入浴

19:15 ミーティング

- ・講義Ⅱ：ダブルスゲームにおけるポジションとフォーメーションプレー 駒田コーチ
- ・モチベーションビデオを見る。見て選手の感想を聞いた。
- ・ナダルの練習のビデオを見る。基本に忠実でボールの後ろに入り、頭を動かさずに

ボールを打球方向に踏み込み、高すぎない打点で打っている。

・前衛のポジションと守備範囲、スイッチプレー、ポーチ(3種類のポーチ)。予測をする。

・講義Ⅲ：アンチドーピング 山本コーチ

ビデオを見て説明。



22:00 就寝

19日 06:30 部屋のかたづけ、清掃

07:00 朝食

08:00 移動

09:00 ・オンコートⅣ：オンコートトレーニング (フィジカル)

・ウォームアップ (フィジカル)：ジョギング

基本的に昨日のトレーニングと同じメニュー、3日間同じメニューをやって違いの変化を確認する。

【ドリル】

- ・タッピング
- ・スキップ
- ・肩入れスキップ (縦振り・横振り、斜め)
- ・ニーアップ→バットキック→アフリカンステップ
- ・クロスオーバーステップ
- ・バッククロスオーバーステップ
- ・コンビネーションランジ
- ・エルボーランジ→ストレートアップ

【快調走】

- ・ホッピング快調走 (3回・5回)
- ・ロケットダッシュ (左右)

【リアクションドリル】

- ・左右スタンプ ダブルスタンプ シザースジャンプ

【トレーニング】

- ・クレージーボール練習 4人ひと組で行う。

【肩作り】

- ・ショルダープレス・サイドベント・片抜き

9:45 ・オンコートⅣ：レシーブからの展開（テニス）

テニスのウォーミングアップ、ミニテニス、GS 対 GS、GS 対ボレー、ロブ対スマッシュを 20 分で行う。

- ・ 2nd サービスをレシーブで攻撃する練習。少し前で構える、体重を乗せて踏み込んで打つ。得意なサイドで打つ。
片方の選手が 2nd サービスを打ち、レシーバーがストレートに攻撃的なレシーブを打つ。前に踏み込んだ時にはスピードを出しすぎないようにスピンをかけて打つ。前で打つ事で相手から時間を奪う。サービスを打った直後に相手は前に踏み込むのでディフェンスしにくい。
- ・ ポイントマッチで行う。サービスは 2nd サービスのみ、レシーブは踏み込んで打つ、半分以上はストレートにレシーブする。最初はデュースコートだけでプレーする。2 対 2 で行う。
- ・ 同じようにアドコートでポイントマッチをする。
- ・ 1 対 1 で 10 ポイントをプレーし確率を考えさせる。サーバーは 2nd のみで打ったら少し下がるレシーブは攻撃的に打ち、ポイント取得率をあげる。サーバー側、レシーブ側は共に取得率 6 割以上を目指す。10 ポイントプレーしたらサーブレシーブを交替し合計 20 ポイントをプレーする。

・クーリングダウン（フィジカル）



12:00 昼食・休憩

13:00 ・オンコートⅤ：オンコートトレーニング 同じ内容のトレーニングをして進歩の度合を見る。

・ウォーミングアップ

【快調走】

- ・ ホッピング快調走（3 回・5 回） 2 面分
- ・ ロケットダッシュ（左右）

【リアクションドリル】

- ・ 左右スタンプ ダブルスタンプ シザースジャンプ

【肩作り】

- ・ ショルダープレス・サイドベント・片抜き

13:30 ・オンコートⅤ：ダブルス（テニス）

- ・ **ダブルスの前衛のポジションについて**（サービスのコースによってポジションを変える）
ワイドサービスの場合の前衛のポジション、センターサービスの場合のポジションを確認した。
（一番右に来た場合、左に来た場合を想定してその中心に立つ。）
- ・ コーチがレシーブで①センターサービスをクロスにリターンするように球出しし前衛がボレー

- する。まずはデュースコートで②センターサーブをストレートに③ランダムに
- ・同様にワイドサービスに対しても行う。クロス・ストレート・ランダムなりターンの球出し。
 - ・コーチがセンターにサービスを入れてレシーバーと前衛でポイントマッチをする。前衛の守るエリアを限定して行う。デュースサイドで行う。11ポイント先取。レシーバーは指定されたエリアに入れたら勝ち、前衛は止めたら勝ち。
 - ・同様にデュースコートでワイドにコーチが球出ししてポイントマッチを行う。
 - ・スイッチプレーでポイントマッチ、コーチがセンターにサービスし、前衛はポーチし後衛はスイッチしてストレートを守る。15ポイントマッチ、同様にワイドサービスでも行う。
 - ・ダブルスゲームをする。1ゲームの中に必ず2回以上スイッチプレーを混ぜること。時間マッチサーバーはセンター付近から打つようにする。
 - ・タイブレークマッチの中で2回以上のスイッチプレーと2回以上のIフォーメーションを使うこととして試合する。7ポイントタイブレーク。

15:15 ・クーリングダウン (フィジカル)

15:30 閉会式

津島理事長、駒田コーチ、山本 S&C コーチ 挨拶

15:45 スタッフ反省会



指導者の感想

中国強化コーチ S級エリートコーチ 五藤 健介

今回、駒田コーチ・山本トレーナーの分かりやすい説明・内容により充実した3日間が送れたと感じています。

テニスの技術的、戦術的な部分の基本部分への指導は今後の選手の糧になるものだと感じました。ただ、今回の合宿では選手の宿舎での行動や練習への取り組む姿勢が良くなく、心の部分の育成や自己管理能力への指導の必要性を強く感じました。合宿、練習に対する姿勢などに対して今まで以上に指導者が意識を高く持たなければこのような合宿を開催頂く意味がないものになるのではないかと危惧しております。

今回ご指導頂いた駒田政史氏・山本修嗣氏に厚く御礼申し上げます。

また、ご協力頂きました(財)日本テニス協会様には心から感謝申し上げます。

さらにご協力頂いたコーチ、スタッフの皆様お疲れ様でした。最後に皆様に感謝を申しあげ、報告を終わらせて頂きます。

広島県代表コーチ 武田 守弘

この度、ナショナルチーム指導者講習会に県代表コーチとして、参加させていただきましたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

テニスのコーチングに関して(駒田コーチ)

今回はポジショニングをテーマに指導していただきました。自分や相手のポジション、自分や相手の得意なショットを考えたいうえで、ショットを選択するというところに、私自身はわかりやすく感じていましたが、選手の方が理解していたかどうか不安に感じました。これは、各県単位でも継続して指導していく必要があると思いました。

ボレーの指導法では、ボールの外を打ちながら、踏込によって長く打ったり、コースを変えたりするという教示方法が、わかりやすく参考になりました。

レシーブからの展開では、この年代におけるレシーブの重要性を改めて気づかされました。「攻撃ポジションにいるサーバーに対して、レシーブで攻撃していけば守備がしにくい」、「フラット系の打球でエースをねらうのではなく、トップの打点からスピン系の打球でも十分攻撃になる」という教示も参考になりました。この年代では、サーブのスピードに限界があるため、攻撃的なレシーブからラリーの主導権を握っていくということが、試合を有利に進めていく鍵であると感じました。

トレーニング指導に関して(山本トレーナー)

3日間同じ内容のストレッチ、ステップ、運動指導を行っていただきました。その変化を観察していましたが、ステップワークにしても姿勢にしても、合宿の前後では変化した選手が多くいたように感じました。しかし、残念ながら、少数の選手は理解できていないようで、適当に流してやっている様子も目につきました。こうなると、自分のテニスクラブに戻ってもなかなか実践しないように思われ、非常にもったいないように思います。

もう一点気づいた点は、練習の前にはウォームアップ、後にはクーリングダウンをしっかりとやっていただいた点です。午前の練習の前後、午後の練習の前後ときちんと体をケアすることが、将来怪我の少ない選手につながるような気がします。これらへの意識づけは、各県の中でも指導していこうと思います。

最後にこの合宿の開催にご尽力いただきました中国テニス協会の方々、指導をしていただいた駒田コーチ、山本トレーナー、地域コーチやトレーナーのみなさん、そして参加選手のみんなに厚く御礼を申し上げます。

鳥取県代表コーチ 高木 利郎

練習:全体的にベーシックな内容が多くわかりやすい説明で良かった。逆に受ける選手の元気がもっと欲しかった。アレンジすることや修正するといった工夫をする選手が少なかった。

トレーニング:例年にくらべたら身体の硬すぎる選手は減った。しかし練習と同様、積極性が欲しかった。

動きの質が一日目より二日目、二日目より三日目と明らかに上がった。ということは継続すればすぐにポテシャルが上がるということである。是非続けていただきたい。

宿泊:睡眠不足の選手が多く、次の日に差し支える選手もいた。食事は残す選手は減ったが、お代替りする選手はほとんどいなかった。もっと食べてもいいのでは…。

全体として:中国地域として選ばれて来たという感覚がなく、プライド・責任・自覚・挑戦といったものが薄かった。もっと‘チーム中国’といった団結力のあるものにしたいものである。

さらに‘チーム中国’が‘チーム日本’に繋がっているんだという実感が与えられたら、選ばれることの意味、挑戦することの大事さ、みんながライバルと同時に自分を強くしてくれる仲間という意識が芽生えるのではないのでしょうか。

三日間ありがとうございました。駒田コーチ、山本トレーナーを始め中国テニス協会、各県テニス協会の方々にお礼申し上げます。

岡山県代表コーチ 小郷 正一

反応の速さ、柔軟性を取り入れながらの攻撃的なゲームスタイルの確立を主眼にした講習会のように思われ、私なりに、ポジショニングをテーマにした教え方に楽しくコートに立たして頂きました。特にダブルスにおけるネットプレイで動きの低い選手についてのレベルアップドリルは、なるほど、なるほどとうなずきながら見させていただきました。関係者の皆様本当にありがとうございました……

島根県代表 芦山 洋子

今講習会に初めて参加出来、自分なりにいろいろ収穫があった事、大変感謝しております。

お世話頂いた中国テニス協会の皆様に心より、御礼申し上げます。

また、内容についてですが、山本トレーナーのトレーニング内容は、デモも含めてとても解り易く、地元を持ち帰り、早速、ジュニア達への実践指導に役立っています。特に肩のウォーミングアップは、好評で、毎回欠かさず行っています

また駒田コーチによる技術指導もコンセプトが明確で理解しやすいと感じましたが、選手にはなかなか伝わらない部分も多いように思いました。

特に、ポジショニングについては、なかなか口頭での説明が選手に伝わっているのかどうか、疑問に思う事もしばしばありました。選手自身が、自分のポジショニングを日頃から意識していないようにも感じました。出来れば、媒体を通して、例えば、その場で録画した自分自身のポジションを検証し、コーチの指導するポジションとの違いを明確にするという意識付けが必要なのではと思います。

夜の講義は、少し、選手も疲れ気味のようで、いいお話ただけに、少し残念でした。

私自身も、この講習会に参加し、他県の指導者の方々と質の濃い意見交換が出来た事が最大の収穫でした。高川さんのトレーニングもすぐに取り入れられるものが多く、参考にさせて頂いております。

最後に、この合宿にて具体的な指導方法を伝授して下さいました駒田コーチ・山本トレーナーのお二人には感謝しております。ありがとうございました。そして、中国5県の地域コーチやトレーナーの皆様と再びお会いし、またより深い情報の共有化が出来る事を願っております。

山口県代表コーチ 村川 洋

9月17日～19日の3日間、JTA;ナショナルコーチの駒田 政史さん、S&Cコーチの山本 修嗣さん、中国テニス協会の方々には大変お世話になりました。

山口県から 男子1人というのも少し寂しい気がしましたが、よく頑張り、帰省時にお世話になった、

コーチや役員の方々に積極的に挨拶をしていたのは、合宿や遠征をする度に成長していて頼もしかった。駒田コーチにはダブルスの練習に入る前にボレーのグリップチェックによるコース打ちの基本形は非常に判りやすかったし参考になりました。

個人的にはサーブ・ボレーについてグリップは何歳くらいからがとの質問にも丁寧に教えて頂き参考になりました。

又 ダブルスのポジショニングについて、今年間近かに迫った山口国体のダブルスの試合チェックに活用出来そうで良かったです。

山本トレーナーに習ったことは9月23日テニスの日のイベントに1時間30分かけて小学生47人に体験して貰いました。近年2ヶ月に1回くらいのペースで小学生対象の練習会を実施してきました、(各団体でもトレーニングは以前より多く時間を取っているようですが、) 中学生なれば怪我や故障が多くみられます。これを防ぐには選手自身が日常の練習や試合の前後にストレッチやトレーニングを習慣づける事が大切だと思います。

「最後に 参加選手のマナーについて」

： 佐賀グラスホバーの報告にもありましたように、最初の説明時からコーチの言うことを本気で聞いていない選手もいたり、その後のことは自己管理の問題から、他人への迷惑も含め今までになく問題があったようです。

： 練習時の態度一生懸命は見えるのだけど、コーチの言うことを実行しようとしないう選手がいたが失敗をしてもチャレンジして欲しかった。

： 宿舎で何度か見回りをしたが(10時消灯、就寝にも拘らず)守られず睡眠不足で翌日の練習に影響がでた。(1部屋8人というのも予算が有れば、4人くらいの方が良かったかも)

* 今後は開催要項に注意事項として明記し案内をする時に注意の強調を引率時に注意の再確認。合宿・練習時に再確認等当面やれることから実施する。

以上。

* 講習の様子を撮影したDVD, BDは中国テニス協会に保管されています。